



部活動地域移行に関する情報をお届けします!

まっチャレ通信

みなさん、こんにちは!

新しい年が始まり、寒さも一層厳しくなってきましたが、まっチャレは地域移行に向けてますますの発展を目指しています。昨年12月には波田公民館で第1回「どうなる?部活動の地域移行」説明会が盛況に開催され、参加者の皆さんとの交流が実りあるものとなりました。また、地域移行検討協議会では送迎の課題や山間地域の地域移行、公民館のフリースペースの活用についても議論が交わされました。これからも、地域とともに育むクラブ活動がより充実したものになるよう、みなさんのご協力をお願い申し上げます!



📍 広げよう「まっチャレ」の輪!



昨年9月30日より受付を開始した「まっチャレ」の団体ですが、件数は徐々に増加しています。1月8日時点で16団体が登録されており、クラブ選択の参考にしていただければと思います。一覧はコチラ → <https://sdb-group.jp/matsuchalle-supportdesk/club/>

No.	種目	団体名	定員	指導者数	入会金	月会費
1	バスケ	梓川男子バスケットボールクラブ	5人	5人	3,000円	0円
2	女子バレー	VC MAST	50人	5人	3,000円	4,000円
3	卓球	あづみ野ジュニア卓球クラブ	50人	5人	1,400円	2,000円
4	ラグビー	シャルマン・ラグビー・アカデミー	30人	4人	0円	2,000円
5	陸上競技	TEAM Rugos	20人	1人	3,000円	4,000円
6	卓球	NPO LINKS	30人	2人	0円	0円
7	サッカー	FC松本Norte United	50人	4人	5,000円	3,500円
8	軟式野球	松本北東M-ONEクラブ	なし	5人	3,000円	2,500円
9	バスケ	サンズ バスケットボールクラブ	50人	6人	0円	0円
10	バドミントン	まつもと城東バドミントンクラブ	20人	18人	6,000円	6,500円
11	サッカー	EYL FC	35人	2人	10,000円	5,000円
12	女子バスケ	Always		3人	1,000円	3,000円
13	サッカー	梓川FC JY	50人	7人	2,500円	3,000円
14	合唱	波田合唱クラブ	30人	2人	0円	2,000円
15	サッカー	FC SURGE (波田FC)	36人	6人	5,000円	3,000円
16	バドミントン	チーム六等星バドミントンクラブ	35人	9人	0円	4,000円

📄 第1回「どうなる?部活動の地域移行」説明会レポート

波田公民館大会議室で12月22日(日)、第1回部活動の地域移行説明会を開催しました。雪がちらつく中、約30名が参加し、地域移行の概要や「まっチャレ」に関する説明の後、意見交換会を実施しました。会では、クラブ届出や連絡先の取り扱い、指導者謝礼の支払い方針、補助金の適用条件といった具体的な質問が寄せられたほか、公平性や持続可能性、新入生の参加促進についても意見が交わされました。一方で、地域移行を通じた新たな可能性や、松本市独自の取り組みへの期待の声もありました。市としては、寄せられた意見を参考に、公平性と透明性を重視した支援体制を構築し、持続可能な地域クラブの実現を目指します。

なお、第2回説明会は2月1日(土)の10時~11時30分、庄内地区公民館大会議室で開催予定です。入場無料。申し込みは以下のURLからお願いします。

◆ 申込フォーム → <https://logofom.jp/form/N7tm/823019>



説明会の様子



意見交換会では多岐に渡る質問が寄せられました





第3回地域移行検討協議会で議論された内容を共有します！

● 地域クラブへの送迎について



本市では、部活動の地域移行に伴う送迎支援の要望が多く寄せられています。令和6年10月に実施したアンケートでは、保護者の約75.5%が「送迎への不安」を挙げています。他自治体では循環バスやタクシーを活用した支援事例が見られますが、本市では「保護者等による送迎」を基本としています。その理由は、生徒ごとに異なる活動場所・時間に対応する一斉送迎の困難さや、財政的制約、公平性への配慮、活動の多様性維持の観点にあります。ただし、送迎については支援策の実施可能性を引き続き研究し、試験的対応や国・県の補助制度が創設された場合には、積極的な活用を検討します。

● 山間地域における地域移行について

山間地域での部活動地域移行は、地域活性化や子どもの健全な育成に重要ですが、山間地特有の課題も顕著です。今回、現地視察を実施し、地域ごとの特性を報告しました。例えば、大野川地区は地域指導者やコーディネーターの存在により地域活動の可能性が高い一方、奈川地区では子どもの人数や交通面での課題があります。自然を活かしたアウトドア活動や伝統芸能の復活、少人数でも可能な競技の導入などが期待されます。また、平日と休日で活動内容を分ける柔軟な対応や放課後時間の活用についても検討が必要です。今後は、地域特性を活かしつつ、モデルケースとして他地域への展開も進めていければと思います。



● 公民館における「フリースペース」の活用について

会議では、生涯学習課が地区公民館を若者の居場所として活用する取り組みを紹介しました。委員からは、公民館の利用に対する意識改革が必要との指摘があり、中学生の部活動を代替する高いハードルではなく、気軽に使える居場所としての利用を促すべきとの意見が出されました。また、公民館が若者の居場所となることに期待する声や、実際に中学生が集まる事例から可能性を感じたという意見もありました。これらを踏まえ、部活動に代わる新しい形の居場所づくりが展望されています。



現在、7か所の地区公民館で実施されているフリースペースの様子



移行検討協議会の資料・議事録は、市のホームページでも公開しています。

→ <https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/chiikiikou/>

